



加  
 治  
 田

东  
 流

集  
 山  
 猿  
 下



特 別  
 15  
 6673  
 21  
 早稲田大学図書館



寶曆十一年己



歳旦

神皇之

竹野園

見尔

こゝ海いさみき

すゝしめ次

常流日喜人のあつと

銀しき

蕉西坊

巴山

美水之居よハ

何と亦福と

各縁

神市之き〇と六半此あゆまて

守徳

柳之茂教學してわさくゆ徳と

左北

福来之徳ハ子よ氣の安ん

可調

先キうけり己りまかしくやま川鳥

源今

年幾門をよても娘一忘衣袖

有隣

門礼之とまを柳のうけこころ

其柳

雲の香もこゝ海芳一神二傳

仙市

年北止ハとりの妻も先ん

度獲まそしきり

宗流舎

於して又下とのめてたさ親まふ

芋女

辰 采女書

二年ゆり木阿婆をよみ陀と  
あつゝふれく

新ふもゆりのわが歌くせよ方の外 以載坊

煤をうらむく動く詠次登 尼尔

せんをりと夢よ八州原のたをよふ 巴山

帛花すてのワケりきりちり 弓藤

新りの髪よ八条のらんで居り 若女

母ハカクたのむまこ吹狂 仙市

あめの歌うひくもまこ一侍 舟松

層もたぐくまの望の極野 北兆

まのの原をハなこの

井阿婆をよみ山屋の

凡俗と文志はさうれハ

又作坊

あひのあつゝ二年よの市此京まあひ

隠極く花嶽のもの静

りりよ新してまことと悠遠

速くし年とわのこ

蕉西夏

善ハ善よ信てむよそと年一のこ

例の二三子よ呼ぶ納會を

信まよとて

采涼夏

おと子よ一筆波情ん年の奥

原をもちのさの比言と々

郊外よ遠遥して

作坊夏

ひと年ハもむ心影もはく子さふ

